

評価実施年度	令和 元 年度	学校名	大分県立 日田 高等学校	
学校教育目標				
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
学校マネジメント	学校経営ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会のニーズを踏まえた適切な学校像のもと、自己評価・学校関係者評価等を活用し、学校の抱える課題解決に向け、目標の重点化が図られているか。</li> <li>○校長のリーダーシップの下、教職員の参画意識が高まっているか。</li> <li>○学校教育目標達成に向けPDCAサイクルが機能しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い。</li> <li>・管理職、ミドルリーダーの相互の意思疎通の強化による組織的な取組が伺える。</li> <li>・第1回訪問で指摘したキャリア教育の取組強化、魅力発信、授業改善の推進、安全・安心に係る取組など、どれも改善が見られており、学校全体の努力が見られる。</li> <li>・地域の進学校として、社会のニーズに応えるべく有意な活動を展開していることは大いに評価できる。</li> <li>・働き方改革の視点でのマネジメント等については、今後の改善がさらに期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、キャリア教育・魅力発信・授業改善推進・安全安心等に係る取組の深化を図り、学校教育目標の達成度の向上を図る。</li> <li>・地域の進学拠点校として、生徒の進学希望を実現させるとともにSSH事業を軸にした地域創生の志を育み、地域に貢献し信頼される学校づくりを一層進めていく。</li> <li>・すでに立ち上げた働き方改革PTにて、行事の精選や実施方法の見直しを進め、効果的で効率的な学校運営を目指す。</li> </ul>
	開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。</li> <li>○中学校等との連携や地域の外部人材を活用した取組が行われているか。</li> <li>○ホームページの活用をはじめ、学校便りの発行など、情報の伝達・公開が適切に行われているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・極めてよい。</li> <li>・地元中学との連絡会を開催するなど円滑な接続に関する有益な取組がみられる</li> <li>・重点目標であるキャリア教育に関する取組はスーパーサイエンスハイスクール(SSH)を軸に、地元行政、若手経営者の会等と連携し、企業魅力発見セミナーや事業所訪問等、多くの優れた取組が見られる一方で、事前学習による見通しと、事後学習等の振り返りを有意義なものにすることが求められる。</li> <li>・ホームページの内容については、生徒や保護者のニーズ調査を行い、必要な情報を確実に発信することが求められる。また、災害時などの緊急連絡の手段としてさらに工夫が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業魅力発見セミナー等の各行事終了後のアンケート結果を分析し、目標に対する効果測定や準備の効率性について検証し、行事の改善につなげる。</li> <li>・学校ホームページの更新頻度を上げ、画像と説明とのバランスが取れた日田高校の魅力をより強く発信できる内容となるように努める。</li> <li>・学校ホームページ等の情報発信において、日常はもとより緊急時でも誰が何時に何をするのかを明確な目的の下に行えるよう、組織的な情報発信のシステムを構築しておく。</li> </ul>
授業改善	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研究を計画的に実施することなどを通じ、授業改善に学校全体としてPDCAサイクルを活用し、組織的に取り組んでいるか。</li> <li>○授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。</li> <li>・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。</li> <li>・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。</li> </ul> </li> <li>○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い。</li> <li>・「質問しやすい・授業が面白い」等の生徒の意見は、授業改善の成果である。</li> <li>・生徒はSSHの探究活動に興味や誇りを持っており、更なる推進が求められる。</li> <li>・協働的で双方向の学びが積極的に行われ、生徒主体の授業が多数あったことは評価できる。理解状況を適切に見取り、教室の空気を感じ取ることが更に求められる。</li> <li>・若い先生を中心にICTを効果的に活用していることは大いに評価できる。ビジュアル等も含め、生徒の理解度が上がっていることが伺えた。</li> <li>・生徒ヒアリングによると、家庭での予習や課題の量が多く、自主学習の時間が少ない。主体的な学習を促す上で、家庭での課題等の量を適切に調整する必要がある。</li> <li>・「本時の目標」を提示しない教員が半数ほどいることが伺えた。見通しを持たせるためにも提示が求められる。</li> <li>・指名の際に、生徒の名前を呼ばない先生が複数いることが伺えた。高等学校の教室は、一人で大人数を相手とした講義を行う場ではないので、信頼関係や承認が満たされるような授業のあり方が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSHで要となる探究活動で事前事後まで含めた指導を心掛け、内容や組織の連携などを検討し、生徒が「学び」の楽しさを実感できるものとなるよう充実を図る。</li> <li>・研究授業・互見授業、授業アンケートの内容をより充実させ、確実に分析を行い個々の課題を明確にできるよう努める。</li> <li>・教科会議において、個々の抱える教科指導に関する課題を組織として共有し対策を講じ、実践に生かせるような体制を機能させる。</li> <li>・本時の目的を明示するとともに指名の方法を統一し、生徒の思考や発言を大切に授業を心掛け、生徒それぞれに達成感を与え学習意欲を喚起できるよう努める。</li> <li>・課題量が適切か否かを吟味し、課題の量に加えて質的な改良も行き、主体的な学習が促進されるよう努める。</li> </ul>
安全・安心	いじめ・不登校等の対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況についての理解を踏まえた上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。</li> <li>○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い。</li> <li>・第一回目の学校訪問が実施された文化祭直前は、校内に製作物などが散在している様子であったが、今回は校内の環境整備に大きく改善が伺えた。</li> <li>・ロッカーの容量が生徒のニーズに応えられていない様子が伺えた。安全、安心な環境の提供のためにも改善が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭直前であっても、安全安心な校内の環境を維持できるよう、学校全体で統一した指導を行う。</li> <li>・「いじめ防止対策委員会」を定例化し、いじめを見逃さない指導やいじめが発生した後の対応を組織的かつ適切に行えるようにする。</li> <li>・ロッカーの増設はすぐには難しいため、荷物等の保管や管理の在り方について、生徒の意見を踏まえた上でのよりよい環境づくりに向けた検討を行う。</li> </ul>
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校施設や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。</li> <li>○学校事故や緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的な取組が行われているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い。</li> <li>・生徒と教員の距離が近く、気軽に相談するなど信頼関係の高さが、生徒ヒアリングからも伺えた。生徒どうしも良好な関係が構築できており、支え合う雰囲気があることも伺えた。</li> <li>・長期に休む生徒や保健室を頻繁に利用する生徒に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して取り組む様子が伺えた。今後は組織的な対応もさらに求められる。</li> <li>・「SNS等のいじめはないか」との問いかけに対して、明確かつ即座に否定できるよう、定期的にSNS等のいじめ防止の啓発を行うことが求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年部や教育相談等の分掌が情報を共有し速やかな対応ができるシステムを構築し、悩みを抱える生徒に対して速やかに且つ組織的に対応できるようにする。</li> <li>・人間関係づくりプログラムの実践や教員対象の研修を実施し、生徒間のよりよい人間関係づくり及び教員のカウンセリング能力やコーチング能力の向上を図る。</li> <li>・生徒対象の情報モラルに係る講習を年度の早い時期に実施するとともに、適切なSNSの利用法や日常の他者への言動等の在り方について定期的に指導や啓発を行う。</li> </ul>
重点課題	入学者の上位層の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入学者の上位層の確保に向けた具体的な方策が講じられているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立大学の合格率の高さや、難関大学の合格実績などによって、日田高校の存在価値をしっかりとアピールできていることは伺えた。</li> <li>・「日田高においでDay」等、新しい取組等での地域に対するアプローチがなされているが、参加者が少なかったことに対する改善や、社会貢献での活動等の強化も今後求められる。</li> <li>・SSH等を大いに利活用しながら、日田高校のファンになる地域住民がさらに増える取組への工夫が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に対して本校の強みや取組の良さをもっとアピールし、信頼され魅力ある学校づくりにつなげる。</li> <li>・入試問題の研究や指導法を教科で検討し、そこから逆算した計画的かつ効果のある指導法を教科で共有できるようにして組織としての指導力向上を図る。</li> <li>・3年間を見通し、成績層や時期に応じた適切な教科指導の計画に基づく指導方法や、生徒の進路意識を高揚させる面接等を確立し、学年・教科・分掌の枠を超えた「日田メソッド」を確立させる。</li> </ul>
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元行政、若手経営者の会等と連携したキャリア教育に関する卓越した素晴らしい取組が見られる。探究活動やアクティブ・ラーニングにより、主体的な学びを促している点は大いに評価できる。先生と生徒の信頼関係の高さや、生徒同士の良好な関係なども大いに評価できる。</li> <li>・課題は2点あり、1点目は入学者の上位層確保である。地元中学校との連絡会や学校開放、ホームページ等の広報活動により、進学実績、キャリア教育、SSHの質の高い取組はアピールできているが「日田高に行けば、様々な取組によりどんな進路も拓ける」という実績を更に挙げるとともに、広報活動の推進が求められる。2点目は、事後学習やフォロー体制の強化である。様々な良い取組が一過性にならないよう、組織的な事後学習による振り返りや、進学等でうまくいかない生徒に対する継続的なフォロー体制等の確立がさらに求められる。</li> </ul>			
校長コメント (次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の進学拠点校として、大学の進学実績の伸張はもとより、地域の将来を担う人材の育成を目指したSSH事業を軸とした学習・探究活動を深化させ、さらなる成果を上げる。</li> <li>・地域の小中学生やその保護者に対して、本校の強みや取組の良さ及び実績をよりアピールするとともに、SSH事業の深化や3年間を見通した「日田メソッド」を機能させての進路実績の向上により、上位層の入学者確保を図る。</li> <li>・すべての学習活動や行事において振り返り学習や事後アンケート等を実施して分析を行い、その活動がきちんと目的を果たしているかの効果測定ができるシステムを構築し、改善に役立てる。</li> <li>・本年度立ち上げた働き方改革PTを機能させ、行事の精選や実施方法の見直し改善を進め、効果的で効率的な学校運営及び教育活動の実践を目指す。</li> <li>・人間関係づくりプログラムの実践や学級担任及び教育相談部による面談スキルの向上を図り、良好な人間関係・師弟関係の下、生徒一人ひとりを大切にしたい生徒指導及び進路指導に努める。</li> </ul>			